

Fujitsu Experience Day 2026

AI-readyなEDIへ

ー サプライチェーンDXを支えるデータ基盤 と金融サービス

みずほフィナンシャルグループ

株式会社みずほフィナンシャルグループ

トランザクション業務部 マーケティングチーム

次長 下村 昌弘

2026年7月16日

ともに挑む。ともに実る。



① AIエージェントを活用した業務効率化はすでに始まっている

■ AIエージェントの活用例

業務領域	AIエージェント活用	期待効果
(判断・生成) 見積作成	・過去実績や原価・在庫に基づく 最適案提示	・業務の標準化・脱属人化 ・回答リードタイム短縮
(提案・推薦) 商品提案	・購買履歴・在庫状況に基づく 推奨商品提示	・提案品質の平準化・底上げ ・クロスセル/アップセル機会の創出
(判断支援) 納期回答・例外対応	・最適納期・代替案の提示 ・調整用文案の自動生成	・業務の可視化・透明性向上 ・問い合わせ対応負荷の軽減
(照合・確認) 支払前3点照合※ ※発注書・納品／検収データ・請求書等による 支払の妥当性を検証するプロセス	・支払データ案の自動生成 ・差異候補の自動抽出	・経理部門の工数削減 ・違算の早期発見 ・ガバナンス強化

② AIエージェントの活用には標準化されたデータが重要

■ EDIは古い仕組みではなく、AIエージェント時代のプライチェーン共通データ基盤として見方を変える必要がある

これまでのEDI	これからのEDI
受発注を電子化する仕組み	AIエージェントが読める取引データを企業間でつなぐ基盤
バイヤー側の調達効率化	バイヤー・サプライヤー双方の業務高度化
個別業務の電子化	サプライチェーン全体のデータ基盤
人手削減の手段	AI活用・サプライチェーンの管理・経営判断の土台

③ EDI普及を後押しする仕組みづくりが必要

- 金融機関として、ZEDIなどのサービス開発などでEDIを活用できる仕組みづくりを進めてきた
- 一層の普及に向け、みずほとしてEDI導入の動機付けやEDI導入のハードルを下げる仕組みづくりをさらに進めていく

後押し	構想サービス
EDI導入の動機付け	✓ AIエージェントや関連ソリューションのご紹介 ✓ 早期資金化や入金予定・資金繰り見通しの案内 ✓ 外部データやEDI情報を活用したサプライチェーンの可視化や choke point の把握 ✓ 例外処理や違算確認の高度化
EDI導入のハードルを下げる	✓ Web-EDIなど、導入しやすい接続手段の提供 ✓ 取引先マスタ、商品マスタ、品目マスタなどの整備支援 ✓ 請求番号、支払通知番号など、入金消込に必要なキー情報の設計支援

④ EDI・AI・金融サービスを組み合わせたパッケージを共創

- B2B取引に関わるさまざまなデータを活用したサービスの開発を推進
- 銀行サービスだけでなく幅広いサービスをパッケージ化し提供していくことを構想

<パッケージ> EDI・AI・金融サービス

<バイヤー>

・調達・購買
・検収・支払
のデータ

<サプライヤー>

・受注・納品・請求
・入金確認
の現場

<テクノロジーパートナー>

・EDI・AI
・業務システム連携
の知見

<金融機関>

・決済・入金・資金繰り
・ファイナンス
の支援

本セミナー・資料に関するお問い合わせ先

富士通株式会社 Fujitsu Experience Day 2026 金融関連ブース事務局
contact-gofin@cs.jp.fujitsu.com

※お問合せいただく際、メール件名か本文に「セミナー：AI-readyなEDIへ、に関する問合せ」とご記載ください